



月に一度のお誕生日会。  
テーブルにお花も飾って、  
準備万端です。

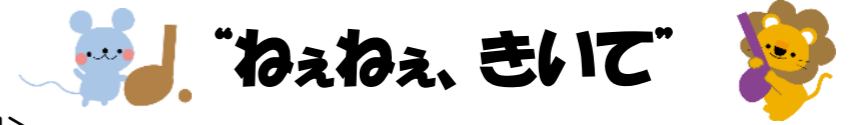
## だれと 出会うか 施設長 貝沼 寿夫

先月10日、お一人の利用者さんが介護保険の事業所へ移行されました。この方は、当法人の練馬の事業所に30年以上前の無認可の時代から通われ、7年前にライフパートナーこぶしに入所されました。ずっとこの間、職員よりも龍鳳の歩みを見届けてくださった方です。新しい事業所でも、その方らしく日々楽しんで生活していただくことを心より願っております。

人生100年時代と言われていますが、障害者の方々の高齢化も課題と言われて随分と月日が経っています。思い起こすと10年以上前から、私自身も関東圏内の高齢に特化した入所施設や知的障害者を受入している特養や法人さんに足を運んできました。その間、法律や制度も変わり、私自身としては高齢化に向けた対策が何一つ進んでいない状況でした。それだけに困難なケースだと感じていましたが、今回スムーズに移行することができました。それも行政の方や包括支援センター・ケアマネさん・快く受け入れてくださった事業所の方々、ご家族や後見人さんのご協力と相談支援や現場の職員と本当に多くの方々が一丸となって成しえたことだと感謝しています。

障害サービスから介護保険への移行については、賛否を含めて様々な議論がなされています。サービスの種類や利用できる日数・時間数の問題、そして利用料1割ご本人負担の問題と、まだまだ議論や制度変更などが必要だと感じています。今後も引き続き

き、障害者の方々の高齢化に伴う住まいや適切な日中活動のあり方、スムーズな介護保険への移行、健康や生活能力の維持について、考え続けていきたいと思えます。そんな中、新しい生活への出発を利用者さん職員みんなで見送らせていただき、ふと考えました。これまでの障害者支援の中でたくさんの方との出会いと別れがありました。出会った障害者の方は、ざっと4・5百人くらいでしょうか。その方たちを通じて、ご家族や同業者の方や学校関係者などを含めると、千人は優に超えるのではないのでしょうか。そして、今回のようにお別れをしてきた方々もたくさんいらっしゃると思います。残念ながら、二度と再会が叶わない別れもありました。仕事の場だけではなく、これまでの人生の中でも、たくさんの方との出会いと別れがありました。一人ひとりとの出会いで多くの気付きや学びを得ることができたと思えます。そうした人たちとの出会いがあり、その方々からの影響を受け、今の自分が作られているのだと感じています。人間は、だれと出会うかによって、大きな影響や大きな差が生まれるのかもしれない。これからの、多くの出会いと別れがあることでしよう。出会った方々にあつた職員と出会えて良かった。ライフパートナーこぶしを利用して良かった。ここに就職して良かった。そう思われる施設であるように1日1日を精一杯楽しんでいきます。



## <照井 邦明>

食事の際、猫背になってしまうNさん。姿勢を正すことと誤嚥防止に、食事用の台を作りました。その台を気に入ってくれて、背筋を伸ばしてくれるようになりました。台の準備・片付けも笑顔で行ってくれます。そんなNさんの姿に、とても嬉しくなりました。

AさんとTシャツを買いに行きました。一緒に選んだTシャツを気に入ってくれ、そのTシャツを着ているときは、一緒に選んだね！というように指をさし、声を掛けてくれます。グータッチのサインも教えるとたくさん覚えてくれます。支援者の行う事一つ一つが、支援に繋がるのだと実感しました。

## キラリ☆と光るこの一枚



毎朝、みんなが使う足ふきマットを綺麗に畳んでくれています☆ (高野竜)



こむぎ粘土を手の平で器用にこねているところです♪ (佐藤里胡)

## 新しい力

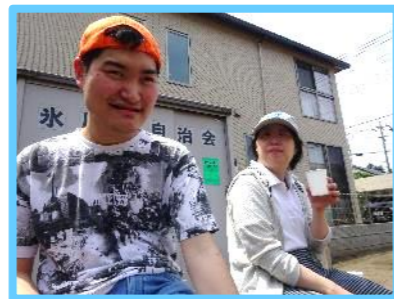
人権プロジェクト課では今年度より新しい仲間を加え、毎月1回会議を実施し、話し合いを行っています。会議の中では支援者同士で、職員全体に人権を意識してもらえりる取り組みを、どうやって伝えていくかを考えています。

その中で新しく仲間に加わった支援者の意見を聞くと、新しい視点での意見や考え方が聞け、ハッとさせられる事が多くあります。その新しい視点から、前年度から課員として参加しているメンバーも刺激を受け、とても良い意見や疑問を会議で話す様子が見られています。

この新しい力が加わる事で、普段自分が思い付かないようなアイデアが出てくる事で、課員の皆さんが積極的に取り組む様子が見られ、今後の人権プロジェクト課として、より良い取り組みが出来ると感じています。

生活支援員 丸山 耕太郎

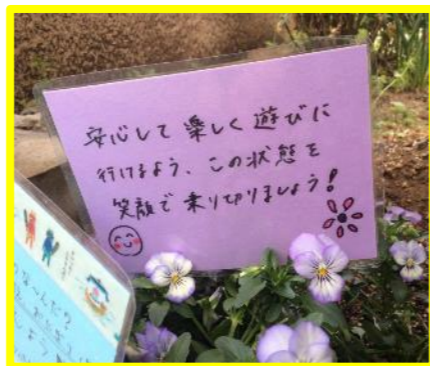
### 日々の様子 ～日中活動など～



### 出張！SNS



SNSに投稿した写真の一部をご紹介します。  
利用者さんの写真はもちろん、職員の写真も結構あるんです♪



暑い夏を今年はどう楽しもうか。近くに住んでいながら見たことのないひまわりを今年は見に行ってみようか。何か新しいことに出会えたらと思う一方で、毎日の生活は穏やかであり楽しくもあり、つい変わらない日常も悪くはないとも感じています。自分の行く先はどこを向いているのかわからないことがまた良いと思うのです。

そのような中、誰もがつい、うつむき加減になる頃に大きな虹がかかっているのを見る機会がありました。空を見上げてスマホに写真を撮りようとして必死になっている人。その人を見てまた別の誰かが足を止め、写真を撮る。「なんだろう」という興味で空を見上げる人たちも。雨が残っていたのですがそれも忘れるくらいに人々が空を笑顔で見上げる。もちろん私も足を止めたのですが、写真よりもその空間にいられることで心が豊かになるようでした。上を見るのもいいものだなと。

また、自宅で学校の授業のことを話していた際、「やっぱり難しいよね」という私に「誰でも初めてだから大丈夫じゃないかな」とさらっと息子が話をしてくれました。「難しい」は私の決めた基準であって、自分の年齢や経験で出来ない理由が欲しかっただけのように感じました。そうとは言え、どこかでは「いや、年齢が違うとね」と言い訳も作っていたのですが、ある時「私があなたのような年齢なら、何でも挑戦するのに」という言葉を頂き、これは難しいことと感じていても挑戦することが出来る。そして、その挑戦はきっと成果を生むことが出来るのだと痛感しました。

いつも同じ方向を見ることは悪いことではありません。その方向でも新たな景色と感じるのか、いつもと同じと感じるのか、人は様々です。そして上を向くことも下を向くことも何かを変えるきっかけを生んでくれると思います。理由をつけて後退してしまうより、少し角度を変えることで新鮮な空気を体に取り入れて、これからも進んでいけたらきっと豊かな日々を送れるはず。

この夏はいろいろな角度で自分を見ながら、光をいっぱい浴びた道行く黄色の花を楽しんでみたいと思います。

総務事務部部長 小松崎 希史子



### 大きな一歩

今年はコロナの影響でいつもと異なる新年度の迎え方となりましたが、こぶしでは新しい活動や取り組みが始動しています。

ある活動での事。従来のプログラム活動に新たに1人の利用者さんが加わることになりました。その方は自分なりのルールがあり、今までグループ活動に入った経験がありませんでした。新しい仲間を迎えるにあたって、活動場所にいることができるのか？順番を待つことができるのか？等不安が募る反面、どんな反応をするのか予測できなかった分期待もありました。

いざ活動が始まると、緊張され落ち着かない様子もありましたが、順番を待ち、最後まで活動に参加することができました。そして次の活動からは、今か今かと活動の始まりを待つ姿があり、活動を受け入れてくれたのかなと胸を撫で下ろしました。

大きな一歩を踏み出した利用者さん。今後も楽しいと思ってもらえるような時間が増えるような支援を展開していきたいと思っています。

生活支援員 増田 沙織